

人文・数理探究類型十周年

「神撫教育」の理念を継承しつつ、複雑化するグローバル化時代にリーダーシップを発揮し、より良い社会の創造に貢献する人づくりを模索する中、平成二十五年に普通科の枠の中の類型として設置されました。定員40名が、一般入試よりもひと月早い特色選抜により入学しています。今年4月に十期生を迎えました。特色ある教育内容に興味を持った生徒たちが、旧神戸第3学区はもちろん、学区改編後は芦屋市や東灘区、淡路など広い範囲から集まっています。今回は、従来型の授業とは少し違った取組みの一端をご紹介します。

◆特別講義

生物学・化学・工学・心理学・社会学・数学・物理学など様々な専門分野の研究者の方々をお招きし、特別講義をしていただいています。研究の面白さを熱く語る先生方に直接お会いし、研究の積み重ねの成果が教科書に載るまでの過程に触れることで、「知りたい」という欲求が科学の発展を進めてきたことを実感し、自分たちが実際に探究を進める際の道しるべとなります。

◆研究室訪問

長期休業中に、京都大学・大阪大学・理化学研究所などを訪問し、入門講座や院生との交流、施設の見学などを体験します。大学での学びに触れ、前述の特別講義と合わせて、仄かな憧れであった研究者という生き方が、具体的な目標に変わるき

っかけになることもあります。

◆フィールドワーク

地元の地域についての理解を深め、「聞き取ったこと」や「観察したこと」から学ぶ体験をするという目的で、長田神社前商店街でフィールドワークを行っています。店舗の方々へのインタビュー調査・店舗観察や街頭観察を行います。

◆探究の実践

グループごとに興味のあるテーマを設定し、探究（課題研究）に取り組みます。「茶殻の消臭効果の評価」「毛髪の吸油性能」「音波のイースト菌発酵促進効果」「トンボの翅の構造」「粘菌のふるまい」「テキストマイニングによる校歌のジェンダー観評価」「コミュニケーションの社会的研究」「商店街のサードプレイスとしての役割」「ベトナム人コミュニケーションと共生」「フェイクニュースの拡散防止」等、様々な角度の問題意識から発展させたユニークなテーマに取り組んでいます。その成果は、ベネッセ全国探究コンテストでの2年連続グランプリ受賞、兵庫県教育委員会・WHO共催の探究発表会で最優秀賞受賞など外部の発表会でも評価されています。

◆アカデミック・プレゼンテーション

探究の成果は、日本語でのポスター発表やパワーポイントを使った発表に加えて、最終的には論文にもまとめます。また、3年生の7月には英語プレゼンテーションコンテストを開催しています。これは、自分たちの探究の意義や成果を、誰にでも分かりやすく英語で伝える力を競うものです。この最終目標に向って、英語プレゼンテーションや論文のルールの学習に特化した授業が

あります。その一環で、オーストラリアで始まった3MT（博士課程の学生が自分の研究内容を3分間で専門知識のない人に伝えるコンテスト）も4期生から取り入れていきます。（QRコードより、授業中の発表の様子をご覧ください）



◆進路

推薦入試の利用を特段に推奨しているわけではありませんが、探究・課外活動・海外でのボランティア活動など、深い学びや主体性・行動力が認められる形で、東京大学・京都大学を始めとして多くの難関国立大学へ推薦入試でも多数の合格者が出ています。六期生には米国プリンストン大学へ進学した生徒もいます。

SSHと「人文・数理探究類型」のこれから

近隣校が理数専門学科を持つ中、本校の類型の最大の特徴は、文理混合クラスであるということです。志望学部によって便宜上、理型・文型のカリキュラムで学ぶわけですが、多様な視点から物事を捉え、考える機会が設けられています。違ったタイプのクラスメイトから刺激を受け、化学反応が起きるような環境作りだけでなく、「文系だから」とか「理系だから」といった限界を自分の中につくらないメンタリテイの涵養を目指してきました。

令和4年度からはSSHの指定を受け、神撫教育の不易の精神はそのままに、不透明な未来を逞しく切り拓く力を培う教育の場としてグレードアップすることを目指しています。